

タングステンの10～12月相場予測 AMJ西野氏寄稿

西側の需要回復が続きスポット調達増なら\$350も

タングステンの中間原料・APTの国際相場（パラタングステン酸アンモニウム，ヨーロッパ・アメリカ）は，20年7月まで205～210ドル/Mtuと低迷していたが，8月末に反発した後は上昇を続け，今年7月末にはほぼ3年ぶりに300ドルの大台に回復した。足元は312～318ドルと，依然として高値で推移している。一方，鉄鋼原料のフェロタングステン（FeW）は20年8月に24～25ドル/kgWまで調整をしていたが，11月後半から急上昇し，今年8月中旬には40ドルに回復した。タングステンの世界需要は堅調な中国にくわえ，ヨーロッパやアメリカ，日本なども自動車市場を中心に回復し，原料調達が活発化している。レアメタルの専門商社・アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）で長らくタングステンのAPT・鉄合金・スクラップを取り扱ってきた西野元樹・本部長に今年10～12月の相場見通しを寄稿してもらった。

西側企業は自社の製錬やリサイクルが高水準で推移

一方，コロナ禍からの需要回復の流れは中期的にみて継続し，西側諸国では精鉱からの製錬や，スクラップのリサイクルが今後とも高い水準で推移していく可能性も高い。西側の需要回復がさらに継続し，自社の製錬量だけでは対応できなくなれば，ヨーロッパ・アメリカのユーザーは中国原料のスポット購入を増やすことになる。その場合はAPT相場も足元の水準からさらなる上昇が見込まれ，350ドルを狙う展開もあり得ると考える。